

18/6/22 名古屋市議会本会議 うかい春美質問（名古屋市民オンブズマンによる、自動文字起こしアプリを用いた文字起こし結果）

次に、鵜飼春美くんにお許しいたします。

鵜飼春美くん議長のお許しを得ましたので、契約の締結についてお尋ねいたします。

2020年。

東京で2度目のオリンピックが開催されるまであと1年早く関与となりました。

オリンピックでの訪日客を名古屋へ呼び込もうとの思惑を持ち、市長はオリンピック開催までに、名古屋城天守閣の木造再建をと気炎を上げておられました。

ところが当初の思惑はどこや。

東京オリンピック開催時に名古屋城天守閣は取り壊される見通しとなっています。

本丸御殿が完成し、あの二度と燃えない天守閣を市民の願いが凝縮された元天守閣がそびえ立つ。

特別史跡名古屋城跡の全貌がご覧いただけるのはほんの1ときしかなく、二次2020年のオリンピック開催時には天守閣は跡形もなく大工事現場がそびえ立つということです。

慌てる必要はどこにもない。

そんな状況の中で、このたび94億円余の木材調達契約議案が上程されました。

私はこの際、市民の皆様幅広く御承知おきいただきべき内容について、3点にわたり確認していただきたいと存じます。

一点目は、技術提案交渉方式に関してです。

今回の名古屋城木造天守閣整備事業では、技術提案交渉方式という本市で初めての手法をとって進めています。

国立競技場がよく似た方式で進められているようです。

しかし、少なくとも、他の大都市では過去に例を見ない方式だと聞いています。

当局の説明によると、今回の事業では設計を進めながら、それと並行して工事についても設計が完了した部分について、五月雨式に工事の契約を締結していくというものだとのことです。

基本設計、実施設計を契約し、その後の工事については一般競争入札を行い、契約を結ぶという従来の施設建築物の手順と相当異なるものと言えます。

ことここに至って、この方式での事業推進には過去のノウハウもなく様々な疑問を指摘する声も寄せられています。

今一度、広く市民の理解を深めるためにわかりやすい説明が必要であると思いますが、この点に関して、観光文化交流局長の見解をお伺いしたいと思います。

2点目は、文化庁の許可に関してでございます。

木造天守閣の復元工事を実施するに当たって、文化庁への現状変更許可が必要不可欠であることは周知の事実です。

しかし、名古屋城天守閣整備事業工程案において計画されている文化庁の復元検討委員会にこれまで一度も提出することができていません。

つまり過去2回、昨年12月と本年3月の復元、当委員会では議題とならず。

話題事項として報告されただけだと聞いています。

なお言えば、本年7月に開催される次回の復元検討委員会を一度でクリアし、さらに10月の文化審議会に認められ、文化庁の許可を得るしかありません。

しかしこのような状況で本当に文化庁の許可が得られるのでしょうか。

大変心配をしています。

先日見事に完成し、その豪華さと歴史的な重さを多くの皆さんが訪れ感動されている名古屋城本丸御殿でさえ、文化庁の許可を売るのに3回の復元検討委員会に諮られ、文化審議会でも認められたとのこと。

木造天守閣編について前述のように一度で文化庁の許可が得られなければ、この平成34年度竣工を目指す木造復元計画は、実現不可能になってしまうのではないかと危惧しているのは私だけではないでしょう。

本当に7月と10月。

二重の扉を一挙に開けることができるのでしょうか。

観光文化交流局長の明確な答弁を求めます。

3点目は、木材の調達に関してです。

今回94億円余の木材の製材についての契約議案は、名古屋城木造天守閣整備事業のうち、約2,300本の木材調達に係るものだというございます。

このような建築物に要する木材の乾燥は一般的に長期間を要するものであると聞いています。

契約締結後、すぐに段取りが取り付けられるものなのでしょうか。

2022年を目指しては相当に大変なスケジュールであると思いますが、いかがでしょうか。

よもや。

江戸時代になかった人工乾燥するわけではないですよ。

また土台に使うには硬くて丈夫な木材が必須とのこと、一部に外国産材が使われるとのことですが、市長いわくの史実に忠実という言葉に反してはいないのかと、そんなすくなからの声に接しています。

以上の内容を踏まえ、94億円への木材調達について、観光文化交流局長の見解をお伺いして、私の第1回目の質問を終わります。

渡辺文化館に渡辺観光文化局長。

契約の締結について3点のお尋ねをいただきました。

初めに、技術提案交渉方式による事業推進についてでございます。

名古屋城天守閣整備事業は、劣化した。

石垣や既存ケーソン基礎の取り扱いなど様々な課題があり、仕様の確定が困難である。

また、特別史跡内に大規模木造建築物を復元する工事であるため、最も優れた技術提案によらなければ工事目的の達成が難しいため、技術提案交渉方式のうち、契約方法として設計交渉の施行等設計高所施工タイプを採用して、プロポーザル方式により技術提案を募集し、優先交渉権者を選定いたしました。

技術提案により、設計から施工までを一括で計画し天守閣の木造復元を進めているものでございます。

本事業につきましては、名古屋城公式 Web サイトにおいて、事業提案に関する選定結果及び技術提案書等を掲載してまいりましたが、議員ご指摘のとおり、技術提案交渉方式を用いた今回の事業の整備手法についても今後速やかに掲載し、市民にわかりやすく紹介して参りたいと存じます。

次に、文化庁への現状変更許可についてでございます。

議員ご指摘のとおり、文化庁からは過去 2 回の復元検討委員会では議題として審議されず話題事項として報告されたと同っておりますが、その報告の際にあわせて 7 点のご意見をいただいております。

私どもといたしましては、戦後都市文化の象徴である RC および SRC 作り天守を解体するにはなお議論を尽くす必要がある。

紙資料の豊富さということのみで名古屋城天衝木造とする考えが正当化できるか検討を要する。

天守解体及び木造天守建築時における天守台石垣に対する影響を考える必要がある。

石垣の調査が継続中であるため、報告がされていない。

石垣の構造解析は難しいし時間がかかると思うの 2 点が主な課題だと認識しておるところでございます。

このような運動の課題がございますが、私どもといたしましては、全力で取り組むことにより、開催がそれとされております。

7 月の復元検討委員会及び 10 月の文化審議会にて審議していただけるよう努めてまいりたいと存じます。

最後に、木材の調達についてでございます。

木材の乾燥期間につきましては、経営経営上受注により差がございますが、大径木の自然乾燥の期間としては 2 年から 3 年必要とされております。

天守閣整備事業にの工程につきましては、短期間で良質な木材を調達する必要があることから、木材の乾燥は自然乾燥だけでなく、機械乾燥を用いて自然乾燥と同等の品質を確保し、確保した上で乾燥期間の短縮を図ることとしております。

本事業で使用する木材は原則、国産材としており、ほとんどが国産材でございますが、入手困難な木材、または材質として適している木材として一部外国産材を使用することとしております。

外国産材を使用することが史実に忠実な復元にならないとは考えておりませんので、御理

解賜りたいと存じます。

以上でございます。

はい。

鵜飼春美くん はい。

過去分が局長から3点にわたり答弁いただきました。

市長初めに申し上げておきますが、私は、本市市民の宝である。

名古屋城に少しの傷さえもつけたくないのです。

全天守閣がただのコンクリートではなく、2度とも燃えない。

名古屋城天守閣をその当時のしみな熱望によって建設され、愛されてきたように、市民の皆さんの理解と熱い思いによって堂々と立ち上がってほしいのです。

その思いは皆同じではないでしょうか。

まず一点目の技術提案交渉方式についてですが、市整理手法について、名古屋では公式ウェブサイトに掲載して市民にわかりやすくご紹介するとの答弁でした。

しかし一般化してきたとはいえ、まだまだWebサイトに縁遠い方と思う大勢おられます。

そうした方々には、やはり情報バリアを感じざるを得ません。

私はそれだけでは納得できません。

市長が先頭に立って市民の中に入っていくべきだと思います。

そうでなければ市長。

庶民ファーストが泣きますよ。

そういえば市長からの名古屋城天守閣木造復元構想が持ち上がった当初は市内16でのタウンミーティングは市長の出席を得て行われたこと思い出しました。

その後本年の1月中下旬に市と竹中工務店による市民市民向け説明会、これは西港北明東南の極だけでしか行われず、シンポジウムは鯉城ホールだけで行われたとのことでしたが、残念なことに、市長のお出ましは小城ホールだけでありました。

その上、この滝。

市民向け説明会やシンポジウムでの質疑応答、会場で配布したアンケートへのご意見等につきましては、後日こちらのページに掲載します。

きっと参加された市民の皆さんに約束しながら、6月下旬の今今に至っても、アンケート結果のまとめまとめや市民の意見などどこにも発表されておられません。

市長は市民の皆さんとの約束をどのように思っているのでしょうか。

2点目の文化庁の許可の件は私としては、見守る以外になすすべがありません。

局長の全力で取り組むことにより、7月の復元検討委員会、10月の文化審議会で審議していただくよう努める。

そう。

答えるしかないのかな。

とも思ったりもしますが、その答弁にたがうことなく、奮闘していただくことを期待する

のみです。

そうこんなときこそ。

市長の市長特別秘書の出番なのではありませんか。

市長特別車。

どのようなことをされているのでしょうかね。

3点目の木材の調達についてですが、やはり人工乾燥なのですね。

人工乾燥は木の風合い色つやを損ねるとの指摘もあります。

木造天守閣の大元である木材だ。

あわて普請の省庁にならないようにと願うばかりでございます。

よくよく検討していただきますよ。

申し述べておきます。

いえ、私の今回、この質疑によって、市長や当局の言う史実に忠実ということが結局はこれを使われるあなたたちの主観に過ぎないということが確認できました。

史実に忠実とは一体何をもって言うのでしょうか。

外国産材を使用することが次月に忠実な復元にならないとは考えておりませんと。

局長の答弁は、まさにあなたたちの主観に基づいた。

ものです。

史実に忠実。

本当に。

そんなふうに、自分たちの勝手に解釈をし使っているのでしょうか。

バリアフリーが必須の現在史実に中立とは一体どのようにあるべきなのでしょうか。

そんな議論が一体どこでどのようになされたのでしょうか。

エレベーターの代わりに新技術を使うというようなもだいぶできているんだよというようなこともですね、市長提案説明で言ってみえました。

どのような新技術が今どこまで出来上がっていて、どのように備えられた。

どのように活用されるのかなど明確に示して、議論の俎上に上げなければ誰も納得なんてしないでしょう。

505億円もの膨大な予算をかける大事業です。

声をあげていらっしゃる障害者の方々も高齢者も。

私も、市長も高齢者なります。

今はそうかもしれませんが高齢者もお子さん連れの家族も市民の誰もが等しく観覧し、楽しむことができる。

学習することができる。

市民の愛すべき誇りの名古屋城木造天守閣となるよう、今後も引き続き、みまもってまいります。ひとまずは所管の委員会に委ねて、私の質疑を終わります。

ご質疑も終わったようであります各案はいずれも慎重審査のため、所管の常任委員会に付

議いたします。